

10月18日(火)

あなたは誰に仕えますか？

聖書朗読 ルカ 16：1～15

あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。 マタイ 6：21

あなたの好きな聖書のたとえ話は何でしょうか？ あるお話は、耳にする回数に関係なく、私たちの心の琴線に触れるのだと思います。その多くの場合には、お話を通して、私たちの道徳的な心が駆り立てられて、主と共にあるより深き歩みへと導かれます。しかしあなたにそうさせる理由は、その動機は、何にあるのでしょうか？どのような行いに対してイエス様は報いたいと望まれるのでしょうか？不誠実で抜け目のない行いを勧めておられるのでしょうか？今日の聖書箇所にある不誠実な管理人がわたしたちの行いの見本となるべきなののでしょうか？今日のこのたとえ話は、私の仕事に対する姿勢とは相容れないことを正直に告白します。

父親が子どもたちにお金の価値について教えていることばを耳にしたことはありますか？わたしたちの御父も同じように教えたいと思われておられます。御父は、お金の価値は決して大きなものではないということをわたしたちに知って欲しいのです。管理人は、お金に対してぶっきらぼうでした。『人は、神のものを盗むことができようか。』（マラキ 3：8）、『持ち物を売って、施しをきなさい。』（ルカ 12：33）、『この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れたどの人よりもたくさん投げ入れました。』マルコ 12：42～44)

イエス様は、明確にお答えになっています。『人間の間であがめられるものは、神の前で憎まれ、きらわれます。』これこそが、私たちが従うべき普遍的な価値なのです。神様は、神様によって与えられた私たちのこの世での富を、永遠のいのちのために使って欲しいと望まれておられるのです。しかし、わたしたちの敵はわたしたちを、この世での短絡的な浅はかな計画に引きずり込もうとします。選択は明確です。主に仕えるか、富に仕えるかです。神にも仕え、また富にも仕えるということとはできません。

讃美歌 285

祈り 愛する神様。私たちが永遠の住まいとなる御国へと招かれるように、この世において、あなた様に頂きたいのちと賜物を使う道をそしてあなた様に仕える賢明な知恵をお授けください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ステファン・スチュワート
ニューメキシコ州 グラント

10月19日(水)

見えるようになる

聖書朗読 ルカ 18：31～43

(イエスが)「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が見えるようになることです」と言った。イエスが彼に、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを直したのです」と言われると、彼はたちどころに目が見えるようになり、神をあがめならイエスについて行った。

ルカ 18：41～43

ジョン・ミルトンは、失明してから、一大叙事詩「失樂園」を執筆しました。彼は、善悪を見分ける目がひらかれ、そのことを知ることができるようにと祈り、その祈りのうちに、盲目ではありながらも、かえってはっきりと見えるようになったと述べています（第三巻54～55）。

今日の聖書の箇所では、ルカは、ものごとに対して、目がひらかれていること、そして、盲目であることについて啓発をしています。ルカは、イエス様の弟子たちのことを記しています。弟子たちは、イエス様の歩みを身近に見ることができながらも、イエス様の死の預言の教えを受け入れることには全く盲目であったのです。しかし、盲目の人は、目がひらかれる源は、イエス様の御力のうちあることを十分に理解する目をもっていたのです。

数年前、私の片目が不可逆性の網膜疾患に冒されていることがわかりました。私は、将来、片目でしか読むことができなくなるだろうということを理解したうえで、目が見えていることに、前よりもいっそう感謝するようになりました。はじめから見えていたにもかかわらず、盲目であったことを見ることをはじめました。私たちは、自らの目が閉ざされていたことを知るときにはじめて、その目がひらかれるのかもしれない。

讃美歌 529

祈り 神様。私の盲目が見えるようにしてください。そして、私の目をあなた様がお見せになりたいと思われるものに開かせてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

デヴィッド・ピアードン
ミズーリ州 セントルイス

10月20日(木)

じっと見なさい、待ちなさい、祈りなさい

聖書朗読 ルカ 22:47~53

目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。 I コリント 16:13

いかほどの人が、自らの人生を、一旦、立ち止って、じっと見ることも、待つことも、祈ることもなしに、直ぐに反発して過ごすのでしょうか？ 剣を抜き、ローマ兵に撃ちかかり、その右の耳を切り落としたペテロのことを言っているのです。イエス様は激しい叱責をもって、ペテロを諫められました。数時間前には、園で、イエス様はペテロに、誘惑に陥らないように、見ていなさい、待っていなさい、祈っていなさいと仰いました(ルカ22:40)。しかし、ペテロは、主から離れて、力によりたのんだのです。

この話を聞いて、あなたが知っている誰かの顔が浮かびましたか？ じっと見ること、そして待つことは、神様の私たちへの招きのうちにある善き行いのなかで、最も難しいものかもしれません。私たちは人生にあって、一旦立ち止まって、じっと見ることも、待つことも、祈ることもしないで、衝動で応酬したり、反抗したりして、いかに多くの過ちを犯してきたことでしょうか。軽率な行いのときにあっては、お互いの深い理解に至るはずがありません。車が通った後には、耳障りな音と不快なものしか残りません。そして自分自身が悲劇に打たれるのです。私たちを通して、神様のはたらきがなされることに代わって、私たちは、ペテロのように、神様への道へと至るところに向かって、貴重な時間を浪費することなく、それぞれのはらたきをいたしましょう。

神様は真実であり、私たちが、よく見て、待ち、祈ることができれば、あらゆる悲しみを勝利へと変えてくださる福音をもたらしてくださるのです。

神様は常に私たちの魂の深い思いに答えて下さいます。

浅はかな思いには決してお答えにはなりません。

—————エミー・カーマイケル

讃美歌 407

祈り 父なる神様。私の今日の人生をあなたに捧げます。私の選択のうちにあなたの導きがありますように、待つときにあなたにある平和が与えられますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

シェリー・リームス

テキサス州 ラボック

10月21日(金)

恥から栄光に

聖書朗読 ルカ 23:32~38

兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をもとったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。 ヨハネ 19:23

想像してください。その非情、蔑みを。十字架に吊るされた男性を、公衆の面前でのその羞恥を、人間としての尊厳のひとつかけらさえも取り払われた姿を。更に、衣服をすべてとられて、彼の目の前で、それをくじで争っている兵士の姿を。

人々は作法として大声で叫びます。それはそうでしょう。どんな悪人であっても、死の瞬間にあっては、みかけ上の敬意が払われるものです。

しかし、イエス様は、十字架の上で、何時間にも渡って、恥辱を受けました。

私は自分を恥じます。この兵士たちは私自身なのです。ひとりよがりな叱責する宗教指導者として、また、イエス様の敗北と最後の数時間を見た家族や友人として。

それは、ここなのです。十字架の下であるここで、私たち人間は、その苦しみを、私たち自身の究極の最悪を味わうのです。私たちは、私たち自身のその残虐な行いをまざまざと見るのです。それが、まさに私たちであることがわかるのです。

そして、私たちは、ここにおいて、生命を与えてくださる慈愛に富んだ「父よ。彼らをお赦しください。」とのお言葉を聞いて驚くのです。

恥を受けられた十字架から、栄光にある神様の玉座へと上られたことが高らかに宣言されているのです。「代償は支払われた。あなたの子どもたちを家に連れてきなさい」。

讃美歌 第二編 182

祈り 主なる神様。イエス様が十字架のうえで犠牲になられたことが、そして、イエス様が、地上にある全ての人間の復活のために、その究極の恥辱を自らすすんでお受けになり、耐えられたことが、歴史とはならず、私たち、一人ひとりの心のうちに今あることとして心に刻ませてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ヴァージル フライ

テキサス州 ヒューストン

10月22日(土)

従順の道のり

聖書朗読 ヨハネ 4:1~26

「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主であると知っているのです。」

ヨハネ 4:42

今日の聖書箇所にあるこの女性は、主の食卓の流れをよく現しています。イエス様が女性のところに来られる。イエス様が会話を始められる。永遠のいのちへの水を与える。イエス様が女性を主の食卓に招き、食事を共になさる。

私たちは、イエス様が「来なさい」と仰って下さることを切に願っています。しかし、それは、神様への従順の道のりの半ばなのです。使徒だけがイエス様の「来なさい」という招きを聞いたのです。彼らは、残りの大部分の人たちへの招きには思いが及ばなかったのです。

イエス様は、私たちに来なさいと招き、そして、更に、全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えることを命じておられます(マルコ16:15)。イエス様の招きは私たち自身だけに対するものではありません。全ての人に対してなのです。永遠のいのちへの水は、貯えるものではありません。私たちは、渴く人々全てとそれを分かち合わなくてはなりません。この女性は、そのことをよくわかっていました。彼女は水がめをそこに置いて、喜びをもって走り、隣人たちに福音を伝えました。「来て、見てください」と彼女は言いました。

私たち全てが行き、宣べ伝えなくてはなりません。私たちは言わなくてはなりません。「来て、見てください。そして信じてください」と。

私たちはイエス様のもとにきます。罪、困惑、疲れ、イエス様は私たちのこうした渴きを癒してくださいます。私たちは、福音を分かち合い、広げます。神のもとに来たれ。来たりて行こう。従順の道のりを。

讃美歌 224

祈り 父なる神様。永遠のいのちへの水を飲ませてください。そしてそれを他者とも分かち合うことができますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン

ガリー・ホロウェイ。

テネシー州 ナッシュビル

10月23日(日)

見えるように私たちの目をひらかせてください

聖書朗読 ヨハネ 9:35~41

「わたしは、は世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

ヨハネ 8:12

生来の盲目、今日の聖書箇所は、驚くべき対比について述べています。癒しの力、霊的な盲目、信仰、恐れ、最後には、キリストへの愛。会堂から追放された男性。イエス様は彼に、見ることのできる景色よりも更に美しいものをお与えくださいました。

「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」「私は盲目であったのに、今は見えるということです」。これは、信仰の目を通して与えられる新たな意味をもつのです。

悲しいことに、パリサイ人は、盲目のままでした。パウロは以下のように述べています。『この世の神が不信心者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。』(Ⅱコリント 4:4~6)

イエス様の愛の光に満たされた心をもつものの表情以上に美しいものはありません。

今静かにあなたを待ちます、私の神。

あなたのみこころを見る準備ができています。

私の目をひらき私を照らしてください、素晴らしき救い主よ。

—— チャールズ・H・スコット

讃美歌 205

祈り 父なる神様。私たちは盲目でした。しかし、あなた様の偉大な愛のゆえに私たちは今、見ることができます。今よりも更にはっきりと見るができますようにお導きください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ブルース & ジェーン・エバンス

テキサス州 グランベリー